

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

令和6年度病害虫発生予察注意報第6号を発表したので送付します。

令和6年度病害虫発生予察注意報第6号

- 1 作物名 かぼちゃ
- 2 病害虫名 アブラムシ類
- 3 発生地域 八重山地域

4 注意報発令の根拠

石垣島における12月のほ場調査の結果、アブラムシ類の葉当たり寄生虫数は3.4頭(平年:0.1頭)、発生ほ場率80%(平年:36.2%)となり、平年と比べ多発生となっている(図1)。一部のほ場では、本種が媒介するモザイク病の発生が確認された。

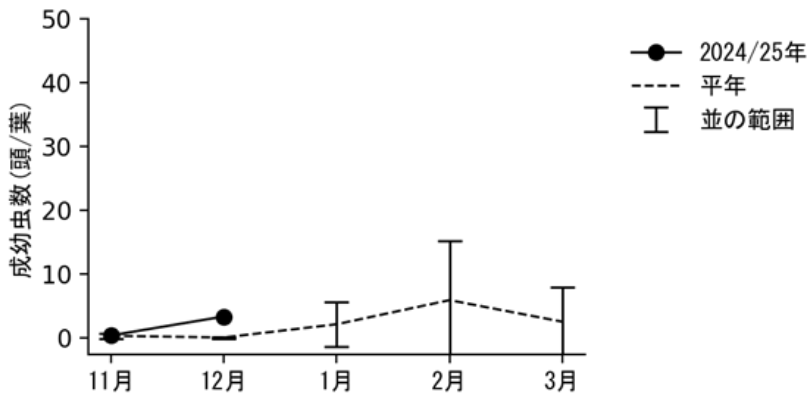


図1 アブラムシ類の寄生虫数の推移

5 発生生態および被害

- (1) 主に成葉の裏に群生して寄生する。無翅虫で増殖し、生息密度が過密になると有翅虫が発生し移動する(図2)。年間多くの世代を繰り返す。
- (2) 葉を吸汁することでモザイク病(図3、4)の病原ウイルスを伝搬する。また、排泄物がすす病を誘発し生育に悪影響を与える。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場周辺の雑草は、アブラムシ類の発生を助長するため除去する。また、ほ場周辺のウリ科植物は、モザイク病の感染源となるため管理を徹底する。
- (2) 有翅虫の飛来を防ぐため、畝間に防風対策を兼ねたソルゴー、さとうきび等の障壁作物を植え付ける(図5)。または、防虫ネット等の資材を利用する。
- (3) 育苗はネットやビニールで被覆された施設やトンネルで行う。

- (4) 育苗時、または定植時に粒剤を施用する。
- (5) モザイク病が発病した株は抜き取り、速やかにほ場外に持ち出し処分する。
- (6) モザイク病は汁液伝染するため、管理作業に使用するハサミなどの消毒、洗浄を徹底する。
- (7) 葉裏をよく確認し、早期発見・防除に努める。
- (8) 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



図2 アブラムシの無翅虫（左）および有翅虫（右）



図3 モザイク病（葉のモザイク症状）



図4 モザイク病（果実の奇形）



図5 障壁作物（ソルゴー）の利用

